

研究推進校事業報告書

<取組と成果のポイント>

- ・ 1枚ポートフォリオや授業で使用したワークシートを蓄積することによる、個をみつめる具体的な評価方法の工夫。
- ・ 道徳科の授業に限らず、全ての教科において「考え、議論する」場面を設定するなど、生徒が主体的に学ぶことができる指導方法の工夫。

1 研究推進校（又は推進地域）の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
長久手市立南中学校	長久手市長配二丁目1901番地	0561(62)9191	729人	

2 研究課題

(1) 道徳の時間の指導の工夫

- ア ねらいとする道徳的価値に迫る考えをもつことができるよう、発問を工夫した授業づくり
- イ アクティブラーニングの手法を取り入れ、「対話」と「協働」を授業の軸とした問題解決学習での学び合いを研究する。

(2) 道徳の時間の評価の在り方を考える

- ア 道徳の時間などのワークシートをファイルに保管し、ポートフォリオ形式の評価を実施する。生徒自身の授業感想などを振り返らせることで、道徳的価値のとらえ方の高まりや、道徳的判断力、実践意欲などの高まりを把握し、考えを深める。
- イ 子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を、教師の授業改善に生かす。

(3) 学校教育全体で取り組む道徳教育の推進

- ア 自己の生き方についての考え方が深められるような道徳教育の計画、実践する。
- イ 家庭や地域社会と連携し、豊かな体験を通して、内面に根ざした道徳性の育成を図る。

3 研究主題とその設定理由

「子どもを捉え、よさを伸ばす道徳教育の在り方」
～考え、議論する道徳の授業実践と評価の在り方の工夫を通して～

本校では、「生き方を考え、主体的な判断ができる生徒の育成をめざして」をテーマに平成27年度より「考える道徳」の授業実践を中心に道徳教育の年間指導計画を作成し、教育活動全体を通して取り組んできた。しかし、授業は担任の力量に委ねられており、講師要請訪問等で代表者が授業を公開し、研究協議を行う機会はあるものの、個々が授業公開や研究協議をすることはなかった。また、平成28年度に取り組んだ愛知地区の教務主任研究では、「道徳教育の活性化に向けた取組」というテーマで、これからの道徳教育についての方向性を考えた。44名の教務主任を対象に行ったアンケート結果では、道徳の授業に対する教員の苦手意識や、指導方法、評価の仕方について不安や課題があると認識していることがわかった。

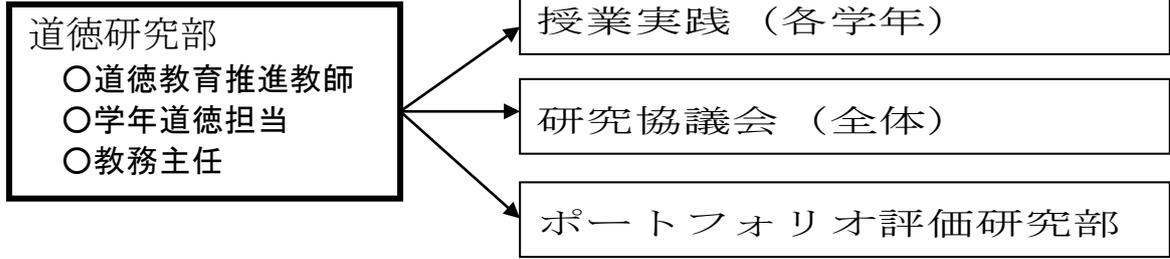
そこで本年度は、本校の校訓「切磋琢磨」、教育目標「知・徳・体の調和のとれた、こころ豊かで実践力のある人間の育成」を柱に、道徳の授業に全員で取り組み、生徒が自分の意見に自信をもって発言できる授業を展開することで、研究主題に迫っていきたいと考え本テーマを設定した。

4 研究の概要

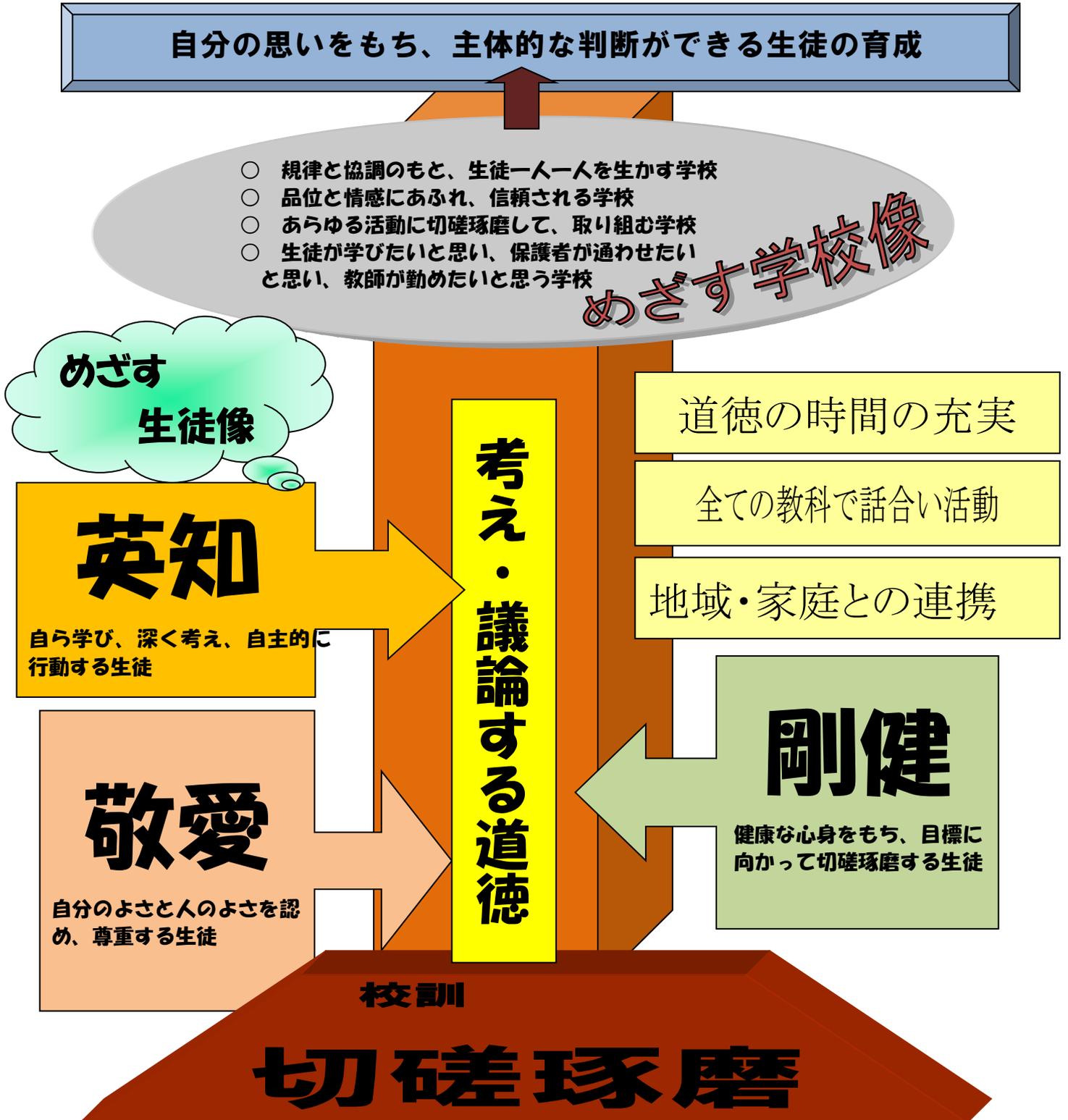
(1) 研究仮説

道徳の授業を中心に、学校教育全体を通して、ファシリテーションの手法を用い、話し合い活動をさせることにより、生徒が自信をもって自分の意見や思いを述べることができるであろう。

(2) 研究の組織



(3) 研究構想



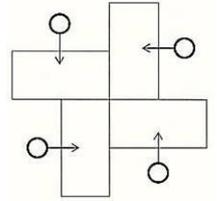
(4) 研究課題にかかわる取組

ア 話し合うこと、議論することについて

全ての授業で、話し合いを行う際に、以下の2つのことを意識して取り組んだ。

- ① 隊形の工夫
- ② ミニホワイトボード（まなボード）の活用

隊形の工夫として、より近い距離で話し合いができるように右図のような隊形で話し合いを行った。距離が近くなると、適切な声の大きさを意識することができた。また、それまで話し合いに積極的に参加できなかった生徒も集中して友達の意見を聞くことができた。



まなボードを活用する利点は、他の生徒に話し合った内容を分かりやすく伝えることができるだけでなく、本体と透明のシートの間に台紙やプリントをはさむことができるところにある。例えば、心情の変化や価値観を表すときにグラフや表をはさみ、その上から自分たちの意見を記入することができる。

このまなボードは道徳の授業で全ての学級が使用した。下の表に、2年生の担任が感じている、まなボードを活用した際の成果や課題をまとめた。

成 果	課 題
小グループの意見を分かりやすくまとめることができる。	繰り返し使うなど、まなボードに書かせるための訓練が必要である。
小グループの意見を全体に分かりやすく示すことができる。	書き方の例を示すなど、分かりやすく書かせるための工夫がいる。
まとめ方にもグループごとの特色が出るので、発表を聞いている生徒の姿勢もよくなる。	友達の意見をすべて写すことがないよう、キーワードを意識させなければいけない。
文字の大きさなど、見ている生徒のことも意識できるようになった。	
繰り返し使用することで「まなボード＝話し合い」という認識ができた。	

【まなボードに記入している様子(写真右)】

【まなボードを使って発表している様子(写真右下)】

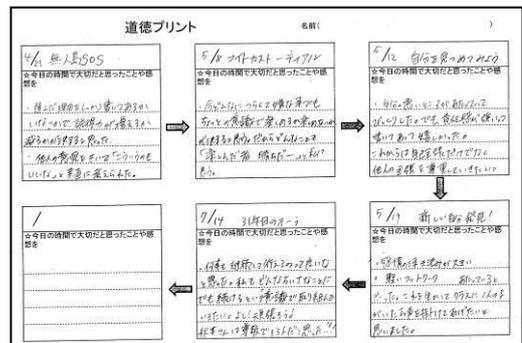
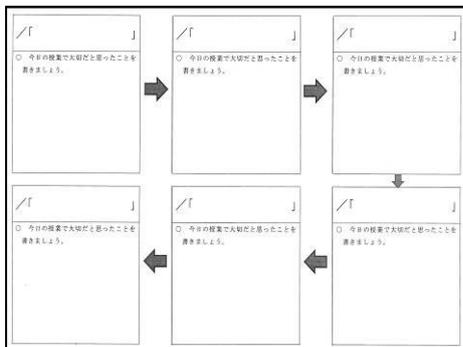


全ての授業において話し合い活動を取り入れている南中学校において、まなボードは必要不可欠なツールである。繰り返し使用していくことで、教師と生徒ともにまなボードの利点を十分発揮できるようになっていかななくてはならない。

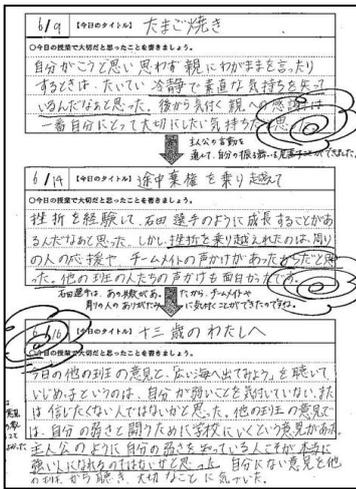
イ 教師一人一人の取組（「OPPAの取組」＝評価につなげる）

① 一枚ポートフォリオの導入

一枚ポートフォリオ評価法（OPPA：One Page Portfolio Assessment、以下OPPAと記す）を導入し、生徒自身が自分の変容に気付くことができるワークシートの工夫に取り組んでいる。



一枚のワークシートに、日付と感想を書き込み、何度も授業で使用する。できるだけ内容項目は同じにしたいが、今年度はどんな内容項目でも毎時間使うことを推奨している。



【ポートフォリオの実際】

この場合、授業の最後に「今回の授業で大切に思ったこと」や「これからの自分はどのように行動するか」などを書かせて振り返りを行った。また、ワンページポートフォリオに書いたことを発表させるなどして全体でも振り返りを行った。

下の表が2年生の担任が感じているワンページポートフォリオを使用した際の成果や課題である。

担任のほとんどがワンページポートフォリオの有用性を感じながらもまだまだ多くの課題があるとしているのが事実である。

左の資料は、実際に生徒が記入したワンページポートフォリオである。現状は、観点が統一されておらず、このまま評価としていくのは難しいが、資料としては十分に価値があると感じている。

成 果	課 題
生徒自身が振り返りやすいという利点がある。	表現力が乏しい生徒に対しての支援や改善が必要である。
授業の振り返りがしやすくなったことに加え、教師も授業内で把握しきれなかった生徒の変容を把握することができる。	感じたことを文章にすることが苦手な生徒には、ワンページポートフォリオを用いての評価は難しいと感じる。
生徒自身がやってきたことを振り返ることができるのがよい。	どのような内容を記入させるかは、補助発問をすることではっきりさせたい。
これまでの授業を容易に振り返ることができ、そのときに感じたことを確認できる点で優れている。	「わかっている、でもできない」という葛藤をどのように行動に結び付けさせるかがワンページポートフォリオでは大切。
自分自身の中で気持ちを確かめられる場となっている。	テーマが異なる授業の感想が1枚のシートに並んでいるため、年間計画に沿ってテーマごとのワンページポートフォリオを使用していくことで、気持ちや行動の変容がさらに分かりやすくなる。
発言が少ない生徒の考えや変容についても知ることができる。また、毎回記録として残すことができるので振り返りやすい。	

5 研究の評価

(1) 研究の成果

ア 授業のユニバーサルデザイン化

本校は、とても若い世代の教員が多い学校である。そこで、道徳推進教師が中心となって、経験値が少ない若い教員も、ベテランと同じように授業ができるように、道徳の授業の流れを統一してみた。

導入→資料の読み取り→個人の意見を考える→班で話し合う→代表者による発表→振り返りという流れで、最後は個人で振り返らせて、道徳的価値に迫ることができるようにした。グループ協議については、前述の通り、全ての教科で導入した結果、生徒たちは協議のやり方に慣れ、短い指示でも自分たちで動けるようになっていた。



【自主的に行うグループ協議】

イ ポートフォリオ評価

今年度は一枚ポートフォリオの実践に取り組んだ。本来は同じ主題で同じシートを使い、一つのテーマについて自分の一年間の変容が見られるのが理想的である。しかし、年間計画通りに授業実践できないときもあったため、徳目に関係なく、すべての道徳授業で、順番に

感想の部分を入力していくことにした。OPPAのメリットは、実際に文章で評価を考える際に、生徒が記録してきた内容から成長が感じられる部分をピックアップし、一人一人に合った評価文を作成することができることである。授業で扱う主題ごとに記録がファイリングされると、具体的に評価文を考えることができると考える。従って、次年度は計画的に、徳目ごとにシートへ記入していく必要がある。

ウ 教員同士の「切磋琢磨」

本校の校訓「切磋琢磨」は、これまで以上に教員間でも合言葉にしていく必要がある。今年度は10月の1ヶ月間を「道徳強化月間」とし、道徳の授業をどこで行うかの情報を共有し、皆で授業を見合えるように設定した。(左図参照)

今年度は1ヶ月間の試験的实施だったが、これからはもっと積極的に公開し合い、教員の授業力・スキルアップにつながる取組を継続して行うことを目標とする。

(2) 今後の課題と取組

今年度は、その他にも多くの実践を各担任が行った。例えば、道徳の授業の基本的な流れを統一し、授業のユニバーサルデザイン化を図ったり、小グループの話合いが意見の発表会にならないように補助発問の研究を行ったりした。その結果、担任の多くが感じている道徳の課題は以下の5つである。

- ① 教師は、さらに多くの授業実践を行っていくこと。
- ② 友達の意見を聞いて、自分は今後どうしていくか考える授業を組み立てること。

【道徳強化月間の一覧表】

- ③ 生徒が自分の道徳的価値を話したくなるような教材・発問にすること。
- ④ 時間配分に気を付け、話し合いの時間や道徳的価値を共有する時間を十分に確保すること。これらのことを意識してこれからも実践を重ねていく。
- ⑤ グループ協議のあと、話し合った内容を発表する場面で、どのようにすれば「発表会」に陥ることなく、ねらいとする価値に迫ることができるのか。積極的にグループ協議を導入し、全ての教科で主体的・対話的な学習活動を意識するようになった反面、グループ協議の内容を、次の展開でどのように生かしていくこと。

以上が課題であると言える。今後も研究協議を続け、評価につなげていける実践を積み重ねていきたい。



【グループ協議後の様子】